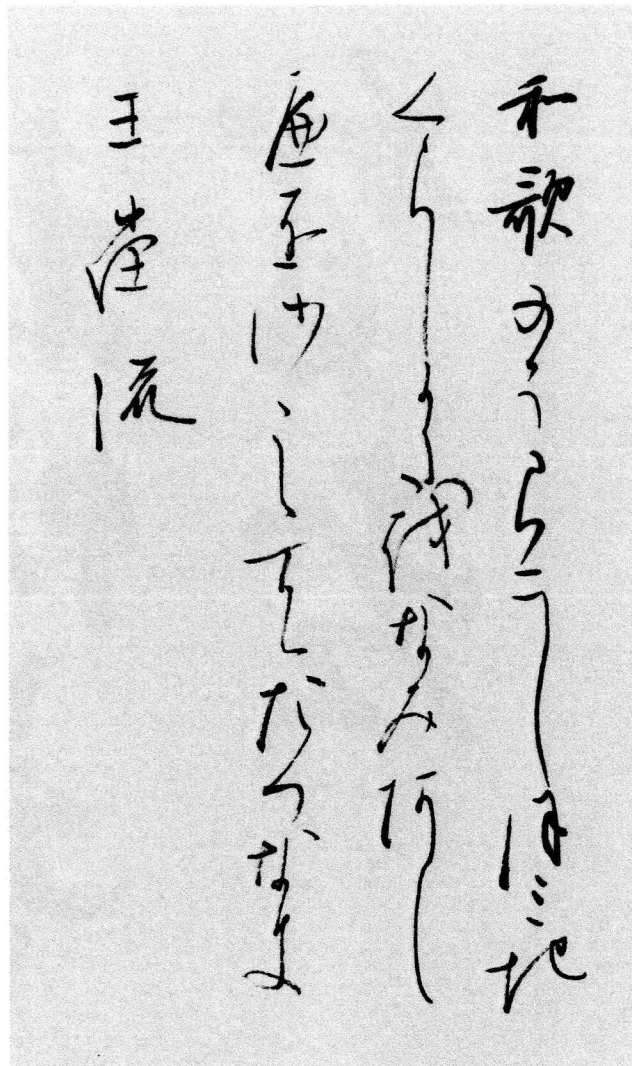


中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (四)  
— 三十六歌仙 —

わかなの浦にしほみちくらしかたをなみ あしべをさして鶴たう鳴き渡る

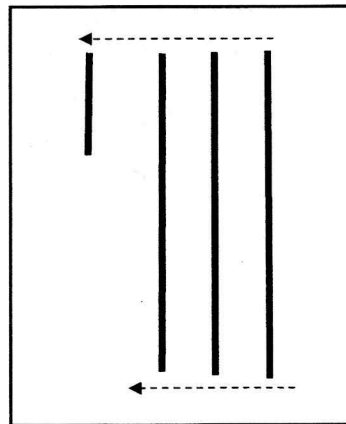
やまへのあかひと  
山部赤人

(山部赤人)  
生没年不詳。奈良時代初期の万葉歌人。姓は宿禰。歌をもって宮廷に仕え、第一級の自然歌人と評されています。



中村素堂先生の書 中谷春径先生所蔵

〈線の構成〉



〈字母〉

わかなのうら二し保ほ三地  
くらし 可多かた越をなみ阿あし  
遍へを沙さ之天てん たつな支し  
王堂わたる流

〈歌意〉

和歌の浦に潮が満ちてくると、餌をあさっていた鶴は、干潟がなくなるので葦の生い茂る岸辺をさして鳴きながら飛んでゆくことだ。この歌は、万葉集・九一九番に「和歌の浦に潮満ち来れば潟を無み葦辺をさして鶴たう鳴き渡る」と出ています。

今回の書式は、「三行三字」で書かれています。この書き方は、歌会の席に懐紙に書き、詠み上げる時の正式な書式です。三行に書き、最後の三字を万葉仮名または漢字で書きます。(独習・書道のお手本 若井香樹著より)

(中村青藍)